

福音を退ける心の壁

ある人が教会の特別伝道集会に友人を誘いました。その集会はご聖霊が豊かに働かれ、クリスチャンたちは、メッセージを聞いて恵まれ、感動の涙を流していました。しかし、神の愛や十字架の福音について語られた時、虐待された経験のある彼女は、「神が愛なら、なぜ私が虐待されるのを許したの。私にとって神は『愛』なんかでないわ！クリスチャンの人はきっと、苦しい事を知らない人たちなのね！」と思ったそうです。

また別の男性に十字架の罪の赦しについて話しました。すると、「僕はかなり良い人間だと思ふよ、不倫もしないし、子どもに暴力も振るわない。嘘もつかないし、汚い言葉や人の物を盗んだりしない。神は僕みたいな人を地獄に送らないでしょう」と言いました。

「覆い」が掛けられ、神様の光が届かない人の心に、悪魔は頑丈な壁を築いています。その壁(要塞)の中から心を掴んで、神のみことばを聞けないようにします。人が困難に遭うとき、心の壁(要塞)は少し崩れて、神の光が入るようになります。しかし「とりなしの祈り」は、困難に遭う前に壁を打ち壊し、みことばの種を蒔くための準備をすることが出来ます。

聖書の学び

I、心の壁・悪魔の「要塞」 Ⅱコリント10：3～5

1、人を救いに導くのは、十字架のことば、福音です（Ⅰコリント1:18）。

しかし、その福音のことばが人の心に届くのを阻止するため、悪魔は全ての人の心に壁・要塞を造っています。

①要塞・・・簡単な壁ではありません。――→ 巨大な壁・城、砦

②「覆い」が掛けられている、人の心には要塞があります。

2、Ⅱコリント10:3～5 を、リビングバイブルで読んでみましょう。

「私がおくあたりまえの弱い人間であることは事実です。しかし私は、戦いに勝つために、人間的な計画や方策を用いませぬ^(v3)悪魔の要塞を打ち破るために、人間の手によらない神様の強力な武器を使います^(v4)この武器は、神様に逆らう、あらゆる高慢な議論と、人々の目から神様を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。この武器を用いて、私は、反抗する者を捕虜として神様に連れ戻し、改心させて、キリスト様に従わせます^(v5)」 （リビングバイブルⅡコリント10:3～5）

①この訳では、心の壁「要塞」についての解決策が示されています。ここで、使徒パウロが用いた戦いの武器は、「とりなしの祈り」です。

②救いに導くために祈る「とりなしの祈り」の効力について見ましょう。

・「人間の手によらない」 → 人間的ではない

聖書知識による、説得ではない。
説明の上手、下手ではない。
人情による訴えでもない。

・「神様の力強い武器」 = 「力強い」…デュナトス → 奇跡、可能
(ギリシャ語)
Dunatos (派：ダイナマイトdynamite=爆発的)

・「要塞を打ち破る」 (v4) } カイサイレシス → 滅ぼす、壊す、支配から離す
(ギリシャ語kaithairesis)
・「壁を打ち砕き」 (v5) }

Ⅱ、心の壁・「要塞」の正体

Ⅱ コリン10：5

1、救いのための「とりなしの祈り」は具体的に、的確に祈る必要があります。

* 人間の心の仕組み（論理により、神の真理を覆い隠す、サタンによる仕組み）

福音を聞くと、人はそれについて考えたり、理論的に考えたりする前に、無意識のうちに、今まで経験して来た情報が蓄積されている壁(要塞)に出合せられます。自分の心に溜ま^たっている事、信じている情報と照らし合わせ、福音のことばに、付け加えて聞いてしまいます。

2、祈りによって破らなければならない壁(要塞)は何でしょうか。

①様々な議論(論理、理論)ロギスモス：経験から来る物の見方や偏見の心。損得を考える心。

日本人なら仏教など宗教、哲学、ヒューマニズム、共産(社会)主義、自分の論理など

②あらゆる高ぶり(高慢)：神様のみこころより、自分の考えを優先し、神に対抗する心。

③すべてののはかりごと：弱い心につけ入る、悪魔の誘惑